

転入 73 人、再開 42 人、無記入 108 人
 男女割合: 男子 7,599 人、女子 6,232 人、無記
 入 300 人
 国の小慢事業 14,108 人、県単独事業 23 人

疾患名または ICD-0 人数(人) %
 部位 (ICD-O) ICD10

白血病 (以下、再掲) 5122 人 36.2%
 急性リンパ性 3771 人 26.7%

バーキット白血病 (B 細胞性、FAB 分類: L3)
 9826 7 人

急性リンパ性白血病 (B 細胞性、FAB 分類:
 L1 又は L2) 9835 1127 人
 ※ 脳腫瘍の 8 人を含めると 1135 人

乳児白血病 9835B 5 人
 急性リンパ性白血病、Ph1 陽性

9835C 19 人
 急性リンパ性白血病 9835N 2380 人
 ※ 脳腫瘍の 10 人を含めると 2390 人

急性リンパ性白血病 C91.0 46 人
 急性リンパ性白血病 (T 細胞性、FAB 分類:
 L1 又は L2) 9837 187 人

急性骨髄性白血病 (以下、再掲) 1088 人 7.7%
 急性骨髄性白血病 (M6)

9840 6 人
 急性骨髄性白血病 9861 810 人
 ※ 脳腫瘍の 1 人を含めると 811 人

急性骨髄性白血病 C92.0 7 人
 急性前骨髄球性白血病 (M3)
 9866 56 人

急性骨髄単球性白血病 (M4)
 9867 23 人
 急性骨髄単球性白血病 C92.5 1 人

急性骨髄性白血病、微小分化型 (M0)
 9872 3 人
 急性骨髄性白血病、未成熟型 (M1)

9873 1 人
 急性骨髄性白血病、成熟型 (M2)
 9874 22 人

急性単球性白血病 (M5) 9891 13 人
 急性巨核芽球性白血病 (M7)

9910 64 人
 治療関連急性骨髄性白血病

9920 1 人
 緑色腫 9930 2 人
 白血病性細網内皮症 9940 1 人
 若年性骨髄単球性白血病 9946 78 人

その他、白血病 (以下、再掲) 263 人 1.8%
 急性白血病 9801 73 人

慢性骨髄性白血病 9875 165 人
 ※ 脳腫瘍の 1 人を含めると 166 人
 慢性骨髄性白血病 C92.1 2 人

緑色腫 9930 2 人
 白血病性細網内皮症 9940 1 人
 白血病 C95.9 12 人

骨髄系の腫瘍 C42.1 8 人

骨髄異形成症候群 9989 154 人 1.1%
 ※ 脳腫瘍の 1 人を含めると 155 人

多発性骨髄腫 9732 7 人 0.0%
 ※ 脳腫瘍の 4 人を含めると 11 人

脳 (脊髄) 腫瘍 (以下、再掲) 3079 人 21.8%
 (以下、白血病、神経芽腫、組織球症、骨髄
 腫等との記載は、他の項目での記載と重複)

髄膜 (C70、以下、再掲) 19 人 0.1%
 悪性黒色腫 8720 1 人

星細胞腫 9400 1 人
 嚢胞内癌 8504 1 人
 横紋筋肉腫 8900 1 人

横紋筋肉腫、胞巣型 8920 1 人
 primitive neuroectodermal tumor
 9364 1 人

脈絡叢癌 9390 1 人
 髄膜腫 D32.9A 2 人
 髄膜腫 9530 1 人

急性リンパ性白血病 (B 細胞性、FAB 分類:
 L1 又は L2) 9835 4 人
 急性リンパ性白血病 9835N 4 人

慢性骨髄性白血病 9875 1 人
 大脳 (C71.0、以下、再掲) 117 人 0.8%

癌	8010	2人	軟骨肉腫	9220	1人
上皮内腺癌	8140	1人	神経膠腫	9380	5人
集合管癌	8319	1人	上衣腫	9391	3人
外胚葉性間葉腫	8921	1人	ependymoblastoma	9392	2人
肝芽腫	8970	1人	毛様細胞性星細胞腫	9421	2人
未分化胚細胞腫	9060	3人	膠芽腫	9440	1人
胚腫	9064	10人	非定型奇形腫瘍	9508	1人
胎児性癌	9070	1人	悪性奇形腫	9080B	1人
卵黄囊腫	9071	1人	側頭葉 (C71.2、以下、再掲)	18人 0.1%	
悪性奇形腫	9080B	1人	癌	8010	1人
奇形腫	9080C	2人	肉腫	8800	1人
絨毛癌	9100	2人	血管芽腫	9161	1人
絨毛上皮癌を伴う混合型	9101	9人	神経膠腫	9380	6人
ユーイング肉腫	9260	1人	脈絡叢乳頭腫	9390	1人
神経外胚葉腫瘍	9364	5人	上衣腫	9391	1人
神経膠腫	9380	16人	星細胞腫	9400	1人
脈絡叢癌	9390	5人	毛様細胞性星細胞腫	9421	2人
上衣腫	9391	11人	海綿芽腫	9423	1人
退形成性上衣腫	9392	7人	髄膜腫	9530	1人
星細胞腫	9400	7人	悪性リンパ腫、T細胞性	9590C	1人
退形成性星細胞腫	9401	1人	病型不明		1人
毛様細胞性星細胞腫	9421	3人	頭頂葉 (C71.3、以下、再掲)	8人 0.1%	
膠芽腫	9440	4人	神経膠腫	9380	2人
乏神経突起膠腫	9450	1人	上衣腫	9391	1人
髄芽腫	9470	2人	星細胞腫	9400	1人
テント上・脊髄原始神経外胚葉腫瘍			神経上皮腫	9503	1人
	9473	1人	ランゲルハンス細胞組織球症	9751	1人
神経上皮腫	9503	2人	急性リンパ性白血病	9835N	1人
神経節膠腫	9505	6人	病型不明		1人
Central neurocytoma	9506	1人	後頭葉 (C71.4、以下、再掲)	4人 0.0%	
異型奇形腫瘍/ラブドイド腫瘍			神経膠腫	9380	1人
	9508	1人	脳室上衣腫	9391	1人
髄膜腫	9530	2人	星細胞腫	9400	2人
悪性リンパ腫、B細胞性	9590B	1人	脳室 (C71.5、以下、再掲)	52人 0.4%	
悪性リンパ腫	9590N	1人	癌	8010	4人
病型不明		3人	胚腫	9064	3人
神経膠腫	C71.9	1人	絨毛上皮癌を伴う混合型	9101	2人
前頭葉 (C71.1、以下、再掲)	22人 0.1%		神経膠腫	9380	2人
癌	8010	5人			
ラブドイド腫瘍	8963	1人			

脈絡叢乳頭腫	9390	8人	松果体芽腫	9362	16人
上衣腫	9391	13人	胚細胞腫瘍（絨毛癌成分が大部分）		
退形成性上衣腫	9392	1人		9101	34人
毛様細胞性星細胞腫	9421	2人	胚腫（松果体）	9064	18人
髄芽腫	9470	3人	小計		160人 1.1%
中枢性原始神経外胚葉腫瘍			小脳（C71.6、以下、再掲）		395人 2.8%
	9473	1人	癌	8010	10人
central neurocytoma	9506	1人	神経内分泌癌	8246	1人
異型奇形腫瘍／ラブドイド腫瘍			ラブドイド腫瘍	8963	2人
	9508	1人	胚腫	9064	1人
ランゲルハンス細胞組織球症			卵黄囊腫	9071	2人
	9751	1人	胚細胞腫瘍	9101	1人
急性リンパ性白血病（B細胞性、FAB分類： L1又はL2）	9835	1人	血管芽腫	9161	3人
悪性奇形腫	9080B	1人	神経外胚葉腫瘍	9364	2人
奇形腫	9080C	3人	神経膠腫	9380	29人
病型不明		1人	脈絡叢乳頭腫	9390	1人
脳室腫瘍	C71.5	3人	上衣腫	9391	24人
髄芽（細胞）腫	C71.9G	1人	退形成性上衣腫	9392	6人
頭蓋咽頭腫	9350	343人	星細胞腫	9400	28人
頭蓋咽頭腫	D44.4	10人	fibrillary astrocytoma	9420	1人
小計		353人 2.5%	毛様細胞性星細胞腫	9421	22人
その他下垂体（C75.1、以下再掲）		121人 0.9%	膠芽腫	9440	2人
癌	8010	4人	髄芽腫	9470	218人
下垂体腺腫	8272	53人	髄芽（細胞）腫	G71.9G	2人
未分化胚腫	9060	2人	髄筋芽腫	9472	1人
胚腫	9064	9人	神経節細胞腫	9492	1人
卵黄囊腫	9071	1人	神経芽腫	9500	1人
混合型胚細胞腫瘍	9085	1人	神経節膠腫	9505	7人
胚細胞腫瘍（絨毛癌成分が大部分）			非定型奇形腫瘍・ラブドイド腫瘍		
	9101	40人		9508	5人
神経膠腫	9380	1人	髄膜腫	9530	1人
悪性リンパ腫	9590N	1人	バーキットリンパ腫	9687	1人
悪性リンパ腫、ろ胞性	9690	1人	奇形種	9080C	4人
ランゲルハンス細胞組織球症			神経節神経腫	9490C	1人
	9751	5人	形質細胞性骨髓腫	9732	1人
下垂体膠腫	C75.1	2人	mastocytosis	9741	1人
病型不明		2人	ランゲルハンス細胞組織球症		
松果体腫	9360	70人		9751	1人
松果体腫	D44.5	1人	小脳腫瘍	D43.1B	2人
松果体細胞腫	9361	21人	病型不明		13人
			脳幹、延髄、第4脳室、中脳		

(C71.7、以下、再掲) 108 人 0.8%			未分化胚細胞腫	9060	6 人
癌	8010	5 人	胚腫	9064	72 人
Germinoma	9064	1 人	胎児性癌	9070	2 人
胎児性癌	9070	1 人	卵黄囊腫	9071	4 人
絨毛上皮癌を伴う混合型			奇形腫の悪性転化	9084	1 人
	9101	1 人	混合性胚細胞腫瘍	9085	12 人
Hemangioblastoma, angioblastoma			絨毛癌	9100	3 人
	9161	1 人	絨毛上皮癌を伴う混合型		
神経膠腫	9380	57 人		9101	94 人
脈絡叢乳頭腫	9390	1 人	血管肉腫	9120	2 人
上衣腫	9391	8 人	血管内皮腫	9120	1 人
退形成性上衣腫	9392	1 人	悪性血管外皮腫	9150	1 人
星細胞腫	9400	9 人	血管芽腫	9161	4 人
退形成性星細胞腫	9401	1 人	間葉性軟骨肉腫	9240	1 人
毛様細胞性星細胞腫	9421	5 人	悪性巨細胞腫瘍	9250	2 人
膠芽腫	9440	2 人	ユーイング肉腫	9260	1 人
乏神経突起膠腫	9450	1 人	神経外胚葉腫瘍	9364	14 人
髄芽腫	9470	6 人	脊索腫	9370	7 人
神経芽腫	9500	1 人	神経膠腫	9380	190 人
神経節膠腫	9505	1 人	神経膠腫	C71.9A	12 人
びまん性大細胞型 B リンパ腫			脈絡叢乳頭腫	9390	26 人
	9680	1 人	上衣腫	9391	64 人
ランゲルハンス細胞組織球症			退形成性上衣腫	9392	21 人
	9751	1 人	星細胞腫	9400	95 人
ウィルムス腫瘍	8960A	1 人	神経星細胞腫	C71.9D	2 人
奇形種	9080C	1 人	退形成性星細胞腫	9401	4 人
病型不明		2 人	毛様細胞性星細胞腫	9421	55 人
脳 (C71.9、以下、再掲) 1066 人 7.5%			海綿芽腫	9423	1 人
癌	8010	55 人	多形黄色星細胞腫	9424	3 人
上皮性腫瘍、悪性	8011	2 人	膠芽腫	9440	13 人
多形細胞癌	8022	1 人	乏神経突起膠腫	9450	6 人
肝細胞癌、線維層板状	8171	1 人	退形成性希突起膠腫	9451	6 人
肉腫	8800	2 人	髄芽腫	9470	68 人
類上皮腫	8804	3 人	髄芽腫	C71.9G	2 人
abdominal fibromatosis	8822	1 人	desmoplastic nodular medulloblastoma		
横紋筋肉腫	8900	2 人		9471	1 人
外胚葉性間葉腫	8921	1 人	髄筋芽腫	9472	1 人
ラブドイド腫瘍	8963	2 人	中枢性原始神経外胚葉腫瘍		
肝芽腫	8970	1 人		9473	2 人
膾芽腫	8971	1 人	神経節細胞腫	9492	7 人
肺芽腫	8972	3 人	神経芽腫	9500	7 人

髄上皮腫	9501	1人	未分化肉腫	8805	1人
神経上皮腫	9503	5人	脂肪肉腫	8850	10人
神経節膠腫	9505	27人	rhabdoid tumor	8963	1人
中枢神経細胞腫	9506	4人	胎児肉腫	8991	1人
異型奇形腫瘍／ラブドイド腫瘍			滑膜肉腫	9040	1人
	9508	5人	血管肉腫	9120	1人
嗅覚神経芽腫	9522	1人	血管芽腫	9161	3人
髄膜腫	9530	9人	骨肉腫	9180	1人
乳頭状髄膜腫	9538	1人	ユーイング肉腫	9260	5人
神経線維肉腫	9540	2人	脊索腫	9370	3人
悪性神経周膜腫	9571	1人	神経膠腫	9380	8人
diffuse large B-cell lymphoma			上衣腫	9391	7人
	9680	1人	星細胞腫	9400	6人
未分化大細胞型リンパ腫			退形成性星細胞腫	9401	1人
	9714	1人	毛様細胞性星細胞腫	9421	1人
悪性細網症	9719	2人	神経節細胞腫	9492	1人
形質細胞性骨髓腫	9732	2人	神経芽腫	9500	4人
組織球性髄様細網症	9750	4人	神経上皮腫	9503	1人
ランゲルハンス細胞組織球症			神経節膠腫	9505	2人
	9751	23人	異型奇形腫瘍／ラブドイド腫瘍		
急性リンパ性白血病 (B細胞性、FAB分類：				9508	2人
L1又はL2)	9835	1人	網膜芽細胞腫	9510	1人
悪性奇形腫	9080B	4人	髄膜腫	9530	3人
奇形腫	9080C	32人	神経線維肉腫	9540	1人
奇形腫	D36.9	1人	未分化大細胞型リンパ腫		
悪性神経鞘腫	9560B	2人		9714	1人
神経鞘腫	9560C	7人	骨髓腫	9732	1人
悪性リンパ腫、B細胞性	9590B	1人	histiocytosis X	9750	1人
悪性リンパ腫、T細胞性	9590C	1人	ランゲルハンス細胞組織球症		
悪性リンパ腫	9590N	2人		9751	7人
組織球性腫瘍	9755N	1人	急性リンパ性白血病 (B細胞性、FAB分類：		
急性リンパ性白血病	9835N	2人	L1又はL2)	9835	1人
視神経膠腫	C72.3	2人	急性リンパ性白血病	9835N	2人
視床下部腫瘍	D43.2C	1人	急性骨髄性白血病	9861	1人
硬膜外腫瘍	D43.2D	1人	骨髄異形成症候群	9989	1人
脳腫瘍	D43.2E	21人	奇形腫	9080C	9人
病型不明		40人	Ganglioneuroblastoma	9490B	1人
脊髄 (C72.0、以下、再掲) 124人 0.9%			悪性神経鞘腫	9560B	1人
癌	8010	17人	神経鞘腫	9560C	5人
肉腫	8800	1人	悪性リンパ腫、T細胞性	9590C	1人
類上皮肉腫	8804	2人	悪性リンパ腫	9590N	1人

脊髄腫瘍	D43.4	4人	退形成性上衣腫	9392	10人
病型不明		2人	星細胞腫	9400	52人
馬尾 (C72.1)		2人 0.0%	退形成性星細胞腫	9401	3人
脳室上衣腫	9391	1人	毛様細胞性星細胞腫	9421	33人
髄膜腫	9530	1人	海綿芽腫	9423	1人
視神経 (C72.3、以下、再掲)		71人 0.5%	膠芽腫	9440	8人
癌	8010	2人	乏神経突起膠腫	9450	2人
神経膠腫	9371	48人	退形成性希突起膠腫	9451	2人
星細胞腫	9400	6人	髄芽腫	9470	83人
毛様細胞性星細胞腫	9421	9人	髄芽腫	C71.9G	2人
神経芽腫	9500	1人	髄筋芽腫	9472	1人
神経星細胞腫	9505	1人	神経節細胞腫	9492	5人
網膜芽腫	9510	1人	神経上皮腫	9503	3人
ランゲルハンス細胞組織球症			神経節膠腫	9505	17人
	9751	1人	中枢性神経細胞腫	9506	2人
視神経膠腫	C72.3	1人	非定型奇形腫瘍・ラプトイド腫瘍		
病型不明		1人		9508	5人
聴神経 (C72.4、以下、再掲)		5人 0.0%	神経芽腫	9500	776人
癌	8010	2人	神経芽腫	C74.9	11人
神経鞘腫	9560C	2人			小計 787人 5.6%
急性リンパ性白血病 (B細胞性、FAB分類: L1 又は L2)	9835	1人	※ 脳腫瘍の 15人を含めると 802人 5.7%		
脳神経 (C72.5、以下、再掲)		8人 0.1%	網膜芽細胞腫	9510	489人
癌	8010	1人	網膜芽細胞腫	C69.2A	8人
脊索腫	9370	1人	網膜芽細胞腫	C69.9	2人
神経膠腫	9380	1人	※ 脳腫瘍の 5人を含め 504人 3.6%		
神経膠腫	C71.9A	1人	悪性リンパ腫 (以下、再掲) 989人 7.0%		
髄芽腫	9470	1人	※ 脳腫瘍の 17人を含めると 1006人 7.1%		
ランゲルハンス細胞組織球症			悪性リンパ腫、B細胞性		
	9751	1人		9590B	116人
神経鞘腫	9560C	2人	※ 脳腫瘍の 2人を含めると 118人		
神経系 (C72.9、以下、再掲)		4人 0.0%	悪性リンパ腫、T細胞性		
神経膠腫	9380	1人		9590C	79人
毛様細胞性星細胞腫	9421	1人	※ 脳腫瘍の 3人を含めると 82人		
神経芽腫	9500	1人	T細胞リンパ腫		
急性リンパ性白血病	9835N	1人	悪性リンパ腫		
神経芽腫と網膜芽腫を除く神経膠腫 (前記を除く)		422人 3.0%	※ 脳腫瘍の 4人を含めると 438人		
グリオーマ	9380	125人	悪性リンパ腫		
脈絡叢癌	9390	20人	非ホジキンリンパ腫		
上衣腫	9391	48人		C85.9A	2人

ホジキンリンパ腫（ホジキン病）		
	9650	123 人
ホジキン病	C81.9	3 人
ホジキンリンパ腫（ホジキン病）		
	C77	2 人
ホジキンリンパ腫、高リンパ球		
	9651	1 人
ホジキンリンパ腫、混合細胞型		
	9652	4 人
ホジキンリンパ腫、結節性リンパ球優勢型		
	9659	8 人
びまん性大細胞型 B リンパ腫		
	9680	26 人
※ 脳腫瘍の 2 人を含めると		28 人
バーキットリンパ腫	9687	75 人
※ 脳腫瘍の 1 人を含めると		76 人
ろ胞性リンパ腫	9690	2 人
※ 脳腫瘍の 1 人を含めると		3 人
菌状息肉腫	9700	1 人
末梢 T 細胞リンパ腫	9702	6 人
未分化大細胞型リンパ腫		
	9714	40 人
※ 脳腫瘍の 2 人を含めると		42 人
悪性細網症	9719	14 人
※ 脳腫瘍の 2 人を含めると		16 人
前駆 T 細胞性リンパ芽球性リンパ腫		
	9729	39 人
組織球症（以下、再掲）	646 人 4.6%	
悪性組織球症	9750	22 人
※ 脳腫瘍の 5 人を含めると		27 人
血球貪食リンパ組織球症		
	9750B	166 人
家族性赤血球貪食性細網症		
	9750C	9 人
ランゲルハンス細胞組織球症		
	9751	425 人
※ 脳腫瘍の 36 人を含めると		461 人
好酸球性肉芽腫	9752	17 人
レットラー・ジーベ病	9754	4 人
組織球肉腫	9755	3 人

*以下、既出（前記）の悪性新生物は含まない

骨・軟骨腫瘍		663 人 4.7%
骨肉腫	9180	428 人
骨肉腫	C41.9A	10 人
		小計 438 人 2.9%
線維芽細胞骨肉腫	9182	1 人
血管拡張性骨肉腫	9183	1 人
骨膜性骨肉腫	9193	3 人
軟骨肉腫	9220	19 人
悪性軟骨芽腫	9230	1 人
粘液腫性軟骨肉腫	9231	1 人
間葉性軟骨肉腫	9240	1 人
悪性巨細胞腫瘍	9250	2 人
ユーイング肉腫	9260	171 人
※ 脳腫瘍の 7 人を含めると		178 人
ユーイング肉腫	C41.9B	2 人
神経外胚葉腫瘍	9364	23 人
筋肉腫瘍		288 人 2.0%
横紋筋肉腫	8900	283 人
横紋筋肉腫	C49.9A	3 人
横紋筋肉腫、混合型	8902	1 人
横紋筋肉腫、胎芽型	8910	12 人
横紋筋肉腫、胞巣型	8920	19 人
		小計 279 人 2.0%
平滑筋肉腫	8890	7 人
筋肉腫	8895	2 人
混合腫瘍、間質系腫瘍		637 人 4.5%
ウィルムス腫瘍	8960A	250 人
ウィルムス腫瘍	C64 A	5 人
		小計 255 人 1.8%
肝芽腫	8970	270 人
肝芽腫	C22.2	6 人
		小計 276 人 2.0%
胃腸間質肉腫	8936	3 人
悪性混合腫瘍（唾液腺由来）		
	8940	2 人
中胚葉性混合腫瘍	8951	1 人

先天性腎間葉芽腫	8960B	6人	胆管癌	8160	1人
悪性ラブドイド腫瘍	8963	13人	肝細胞癌	8170	9人
腎明細胞肉腫	8964	27人	腺嚢胞癌	8200	4人
臍芽腫	8971	14人	家族性大腸ポリポーシス	8220	3人
肺芽腫	8972	19人	悪性カルチノイド	8240	1人
胸膜肺芽腫	8973	9人	神経内分泌癌	8246	1人
胎児肉腫	8991	3人	肺癌	8251	2人
充実性偽乳頭臍腫瘍	8452	9人	乳頭状腺癌	8260	9人
			腎細胞癌、明細胞型	8310	2人
胚細胞腫瘍		344人 2.4%	腎細胞癌	8312	10人
奇形種	9080C	57人	濾胞状腺癌	8330	7人
悪性奇形種	9080B	44人	副腎皮質癌	8370	12人
		小計 101人 0.7%			
卵黄嚢腫	9071	110人	扁平上皮腫瘍		78人 0.6%
卵黄嚢腫	C76.3A	2人	乳頭状癌	8050	63人
卵巣の悪性腫瘍	C56	3人	扁平上皮癌	8070	11人
卵巣の悪性腫瘍	C56 C	2人	リンパ上皮癌	8082	3人
未分化胚細胞腫	9060	50人	基底細胞癌	8090	1人
精細胞腫	9061	2人			
胚腫	9064	59人	軟部腫瘍、肉腫		57人 0.4%
胎児性癌	9070	4人	肉腫	8800	17人
奇形腫の悪性転化	9084	1人	紡錘形肉腫	8801	11人
混合型胚細胞腫瘍	9085	10人	小細胞肉腫	8803	2人
			類上皮肉腫	8804	8人
絨毛性腫瘍		102人 0.7%	未分化肉腫	8805	15人
※ 脳腫瘍の164人を含めると266人 1.9%			線維形成性小円形腫瘍	8806	4人
絨毛癌	9100	6人			
絨毛上皮癌を伴う混合型	9101	96人	線維性腫瘍		59人 0.4%
			線維肉腫	8810	23人
上皮性腫瘍		108人 0.8%	線維粘液肉腫	8811	2人
癌	8010	95人	骨膜性線維肉腫	8812	1人
上皮性腫瘍、悪性	8011	2人	乳児性線維肉腫	8814	6人
巨細胞癌	8012	2人	アグレッシブ線維腫症	8821	7人
低分化癌	8020	3人	腹腔内線維腫症	8822	6人
未分化癌	8021	4人	筋線維性線維腫症	8824	4人
多形細胞癌	8022	1人	悪性線維組織球腫	8830	5人
小細胞癌	8041	1人	皮膚線維肉腫	8832	5人
			滑膜腫瘍		48人 0.3%
腺癌		68人 0.5%	滑膜肉腫	9040	39人
上皮内腺癌	8140	7人	滑膜肉腫、紡錘形	9041	2人

明細胞肉腫	9044	7人	嚢胞性、粘液性、漿液性腫瘍	4人 0.0%
			粘液嚢胞腺癌	8470 4人
末梢神経性腫瘍		21人 0.2%		
悪性末梢神経鞘性腫瘍	9540	6人	性索、間質系腫瘍	4人 0.0%
悪性シュワン腫	9560B	7人	悪性アンドロblastoma	
神経鞘腫	9560C	8人		8630 1人
			悪性セルトリ細胞腫	8640 1人
			悪性ライディッヒ細胞腫瘍	
傍神経節腫およびグロームス腫瘍		13人 0.1%		
悪性パラガングリオーマ	8680	1人		8650 1人
褐色細胞腫	8700N	11人	悪性パラガングリオーマ	8680 1人
悪性褐色細胞腫	8700	1人	移行上皮癌	2人 0.0%
			類基底細胞癌	8123 2人
血管腫瘍		18人 0.1%		
血管肉腫	9120	3人	皮膚および付属器腫瘍	3人 0.0%
悪性血管内皮腫	9130	11人	皮膚付属器癌	8390 1人
血管芽腫	9161	4人	基底細胞癌	C44.9B 1人
			皮膚癌	C44 1人
脂肪腫瘍		12人 0.1%		
脂肪肉腫	8850	6人	粘液類上皮癌	8430 8人 0.1%
粘液脂肪肉腫	8852	1人		
脂肪肉腫、混合型	8855	1人	腺房癌	8550 6人 0.0%
脂肪芽細胞症	8881	4人		
			その他 ICD-O による登録	7人 0.0%
顆粒細胞性腫瘍および胞巣状軟部肉腫			転移性腫瘍	8000 2人
		13人 0.1%	脊索腫	9370 5人
胞巣状軟部肉腫	9581	13人		
リンパ管腫		27人 0.2%	その他 ICD-10 による登録	30人 0.2%
悪性リンパ管腫	9170	6人	膵臓の悪性新生物	C25 6人
リンパ管腫症	9174	21人	(ランゲルハンス細胞組織球症の記載有)	
			胃腸管の悪性新生物	C26 1人
髄膜腫瘍、髄膜腫	9530	16人 0.1%	肺がん	C34.9 1人
			後縦隔の悪性新生物	C38.2 1人
黒色腫、母斑細胞腫		31人 0.2%	骨の悪性新生物	C41 4人
悪性黒色腫	8720	19人	神経の悪性新生物	C47 1人
巨大色素性母斑	8761	12人	軟部組織の悪性新生物	C49 2人
			眼の悪性新生物	C69.9 2人
乳管、小葉、髄様腫瘍		15人 0.1%	甲状腺の悪性新生物	C73 1人
嚢胞内癌	8504	3人	臀部の悪性新生物	C76.3 1人
髄様癌	8510	12人	(Wilms tumor の記載有)	
			大腿の悪性新生物	C76.5 1人
			リンパ節の悪性新生物	C77 1人

原発不明の悪性新生物	C80 C	3 人
その他の芽腫	C80 D	1 人
血小板機能異常症	D69.1	3 人
クモ膜嚢胞	G93.0	1 人

不明（コンピュータ入力ミス等） 7 人 0.0%

2. 慢性腎疾患

「慢性腎疾患」に関する集計結果を表 2 に示す。

平成 10 年度の登録人数は 9,796 人、平成 11 年度は 10,243 人、平成 12 年度は 10,265 人、平成 13 年度は 10,294 人、平成 14 年度 9,600 人、平成 15 年度 10,826 人、平成 16 年度 8,978 人、平成 17 年度 8,685 人、平成 18 年度 7,855 人、平成 19 年度 8,242 人、平成 20 年度 8,054 人、平成 21 年度 8,405 人、平成 22 年度 8,638 人、平成 23 年度 8,686 人であり、平成 17 年度の法制化後はほぼ一定の登録人数となった。入通院とも対象になり、疾患ごとに対象基準を決めて、対象患児の重点化を図ったため、全国レベルでの対象者数は、法制化後、若干減少している。

県単での登録は平成 16 年度の 1,094 人、平成 17 年度 548 人、平成 18 年度 359 人、平成 19 年度 264 人、平成 20 年度 241 人、平成 21 年度 145 人、平成 22 年度 199 人、平成 23 年度 100 人と減少し、今後は全国的に統一された基準での登録が期待される。

平成 23 年度は登録人数順に、ネフローゼ症候群 31.9%、IgA 腎症 21.9%、メサンギウム増殖性腎炎 5.8%、巣状糸球体硬化症 5.2%、紫斑病性腎炎 4.5%、慢性腎不全 4.3%、膜性腎症 4.0%、水腎症 3.6%、膜性増殖性糸球体腎炎 3.5%、腎低形成 2.7%であり、これら 10 疾患で慢性腎疾患の 87.4%を占めていた。

平成 16 年度と比較して平成 17 年度に登録割合が増加した病理診断名の IgA 腎症は 19.3%（平成 17 年度）→20.6%（平成 18 年度）→22.4%（平成 19 年度）→23.0%（平成 20 年度）→22.9%（平成 21 年度）、→22.3%

（平成 22 年度）→21.9%（平成 23 年度）、巣状糸球体硬化症は 2.9%→4.1%→ 4.4%→ 5.0%→4.9%→5.0%→5.2%、膜性増殖性糸球体腎炎 2.9%→3.4%→3.6%→3.2%→3.5%→ 3.6%→3.5%、メサンギウム増殖性腎炎は 2.6%→ 3.6%→4.1%→5.2%→6.1%→5.8% →5.8%と高止まり傾向を示し、逆に慢性糸球体腎炎は 1.1%→0.3%→0.2%→0.1%→0.0% →0.0%→0.1%、慢性間質性腎炎 0.7%→0.5% →0.4%→0.5%→0.4%→0.5%→0.4%と減少傾向を示した。ステロイド抵抗性ネフローゼ症候群での登録は、1.7%→2.4%→2.4%→ 2.6%→3.3%→3.8%→4.5%とさらに増加した。以上の結果より、登録内容が以前より正確になったと期待される。

表 2. 平成 23 年度 慢性腎疾患

Chronic Renal Diseases

（合計 8,686 人）

新規診断 1,336 人、継続 7,191 人、転入 39 人、再開 57 人、無記入 63 人
男子 5,001 人、女子 3,507 人、無記入 178 人
国の小慢事業 8,586 人、県単独事業 100 人

疾患名	ICD-10	人数(人)	%
急速進行性糸球体腎炎	N01.9	77	0.9
Goodpasture 症候群	M31.0	1	0.0
慢性腎炎症候群（以下、再掲）		9	0.1
慢性糸球体腎炎	N03.9	6	0.1
慢性増殖性糸球体腎炎	N03.8	3	0.0
硬化性糸球体腎炎	N05.9	4	0.0
ネフローゼ症候群	N04 等	2774	31.9
（以下、再掲）			
微小変化型	N04.0	125	1.4
先天性	N04.9B	48	0.6
ステロイド抵抗性	N04.0B	392	4.5
遺伝性腎炎	N07.9 等	193	2.2
Alport 症候群（再掲）	Q87.8B	87	1.0
二次性腎炎（以下、再掲）		2313	26.6
IgA 腎症	N02.8A	1905	21.9
IgM 腎症	N02.8B	13	0.1

紫斑病性腎炎	D69.0B	395	4.5
メサンギウム増殖性腎炎	N05.3	504	5.8
びまん性（再掲）	N05.3A	51	0.6
巣状（再掲）	N05.3B	13	0.1
巣状糸球体硬化症	N05.1A	451	5.2
巣状糸球体腎炎	N05.1B	16	0.2
膜性増殖性糸球体腎炎	N05.5	306	3.5
膜性腎症	N05.2	347	4.0
先天性腎奇形（以下、再掲）		543	6.3
多発性嚢胞腎	Q61.3	82	0.9
腎嚢胞	Q61.0	6	0.1
異形成腎	Q61.4	71	0.8
両側性多房性嚢胞異形成腎	Q61.4B	1	0.0
腎低形成	Q60.5A	235	2.7
Oligonephronia	Q60.5B	1	0.0
Potter 症候群	Q60.6	1	0.0
腎無形成	Q60.2	16	0.2
家族性若年性ネフロンろう	N25.8D	42	0.5
Gitelman 症候群	N25.8F	25	0.3
尿路の奇形等	Q62.8	44	0.5
腎の奇形等	Q63.9	19	0.2
慢性間質性腎炎	N11.9	39	0.4
慢性腎盂腎炎	N11.9B	63	0.7
閉塞性腎症（以下、再掲）		366	4.2
水腎症	N13.3	310	3.6
水尿管症	N13.4	26	0.3
巨大水尿管症	Q62.2	3	0.0
尿路閉塞性腎機能障害	N11.1	26	0.3
閉塞性腎障害	N13.8	1	0.0
腎尿路結石症	N20.9 等	4	0.0
腎結石（再掲）	N20.0	4	0.0
腎動脈狭窄	I70.1	4	0.0
腎静脈血栓	I82.3	2	0.0
腎動脈塞栓	N28.0	2	0.0
腎血管性高血圧	I15.0	73	0.8
Bartter 症候群	E26.8	72	0.8
慢性腎不全	N18.9	372	4.3
萎縮腎	N26	63	0.7
腎尿細管性アシドーシス	N25.8	75	0.9

移植腎	N18.0	8	0.1
不明（コンピュータ入力ミス等）		3	0.0

3. 慢性呼吸器疾患

「慢性呼吸器疾患」に関する集計結果を表3に示す。

法制化前の「ぜんそく」の登録人数は、県単の増加に伴って、平成10年度は8,396人、平成11年度8,924人、平成12年度11,934人と増加したが、その後、新しいガイドラインの普及等により、平成13年度は9,902人、平成14年度5,817人、平成15年度5,326人、平成16年度5,276人と減少に転じた。近年の治療の向上に伴う登録数の減少と考えられる。

法制化後の平成17、18、19、20、21、22、23年度の「慢性呼吸器疾患」の登録人数は、各々1,688人、1,878人、2,040人、2,177人、2,451人、2,451人、2,769人であり、新規対象疾患の増加に伴って微増した。しかし、気管支喘息は各々912人、778人、728人、635人、581人、535人、463人であった。気管支喘息は対象基準が厳しくなったため、全国レベルでの登録は平成16年度までの1割近くまで激減した。平成18年度以降は「概ね1か月以上の長期入院療法を行う場合」も対象になり、その後は対象者数の回復が見込まれていたが³⁾、さらに減少した。ステロイド吸入薬等、治療法の改善によると考えられる。

県単独事業での登録は平成16年度の847人から平成17年度32人、平成18年度21人、平成19年度13人、平成20年度10人、平成21年度7人、平成22年度15人、平成23年度4人と減少傾向が続き、今後は全国的に統一された基準での登録が期待される。

平成17年度新規対象疾患は、17年度→18年度→19年度→20年度→21年度→22年度→23年度にかけて慢性肺疾患306人→485人→562人→705人→893人→983人→1149人、気管狭窄230人→358人→453人→521人→613人→697人→705人、中枢性低換気症候群80人→101人→121人→138人→165人→178人

→201 人等と増加した。法制化後の小慢事業の主旨に沿った登録児の増加と考えられる。

表 3. 平成 23 年度 慢性呼吸器疾患

Chronic Respiratory Diseases

(合計 2,769 人)

新規診断 674 人、継続 2,032 人、転入 15 人、再開 16 人、無記入 78 人

男子 1,427 人、女子 1,264 人、無記入 78 人

国の小慢事業 2,765 人、県単独事業 4 人

疾患名	ICD-10	人数(人)	%
気管支喘息	J45.9	463	16.7
気管支拡張症	J47	90	3.3
先天性気管支拡張症	Q33.4	1	0.0
気管狭窄	J98.0	775	28.0
肺へモジデローシス	E83.1B	49	1.8
慢性肺疾患	P27.9	1149	41.5
中枢性低換気症候群	G47.3B 等	201	7.3
先天性中枢性低換気症候群 (再掲)	G47.3A	157	5.7
Cystic Fibrosis	E84.9	11	0.4
Kartagener 症候群	Q89.3	5	0.2
線毛機能不全症候群	Q89.8	20	0.7
先天性肺胞蛋白症	J84.0	1	0.0
不明 (コンピュータ入力ミス等)		3	0.1

4. 慢性心疾患

「慢性心疾患」に関する集計結果を表 4 に示す。

平成 10 年度の登録人数は 15,333 人、平成 11 年度 11,717 人、平成 12 年度 12,096 人、平成 13 年度 8,617 人、平成 14 年度 12,049 人、平成 15 年度 16,558 人、平成 16 年度 11,575 人、平成 17 年度 14,029 人、平成 18 年度 13,525 人、平成 19 年度 15,026 人、平成 20 年度 15,119 人、平成 21 年度 16,238 人、平成 22 年度 16,907 人、平成 23 年度 17,907 人であった。

県単独事業での登録は平成 16 年度の 1,823 人から平成 17 年度 898 人、平成 18 年度 706 人、平成 19 年度 564 人、平成 20 年度 528 人、

平成 21 年度 336 人、平成 22 年度 483 人、平成 23 年度 260 人へと減少傾向が続き、今後は全国的に統一された基準での登録が期待される。

平成 23 年度の登録割合は多い順に、Fallot 四徴症 13.9%、心室中隔欠損症 13.2%、両大血管右室起始症 6.6%、単心室 5.7%、完全大血管転位症 5.6%、心内膜症欠損 5.4%、肺動脈閉鎖症 4.9%、心筋症 3.3%、大動脈狭窄症 3.0%、大動脈縮窄症 2.8%、心房中隔欠損症 2.3%、僧帽弁閉鎖不全症 2.3%、肺動脈狭窄症 2.0%であり、昨年度の報告数と大きな違いはなかった。

ただし、法制化後の平成 17→23 年度と比較的重症なチアノーゼ性疾患が増加し、比較的軽症な疾患が減少していたが、平成 23 年度はさらにその傾向が強くなった。平成 17 年度以降は入通院とも対象になり、疾患ごとに対象基準を決めて、対象患児の重点化を図ったため、重症患児が増加したと推測される。小慢事業の主旨に沿った登録患児の増減と考えられる。

川崎病は膠原病のみの登録となり、平成 16 年度→17 年度→18 年度→19 年度→20 年度→21 年度→22 年度→23 年度にかけて、冠動脈瘤 5.6%→1.0%→0.5%→0.4%→0.4%→0.4%→0.3%→0.3%、冠動脈拡張症 2.2%→0.2%→0.1%→0.0%→0.0%→0%→0%→0.0%と激減した。

表 4. 平成 23 年度 慢性心疾患

Chronic Heart Diseases

(合計 17,907 人)

新規診断 3,012 人、継続 14,589 人、転入 67 人、再開 110 人、無記入 129 人

男子 9,518 人、女子 7,910 人、無記入 479 人

国の小慢事業 17,647 人、県単独事業 260 人

疾患名	ICD-10	人数(人)	%
心筋症 (593 人)			
心筋症 (以下、再掲)	I42.9 等	593	3.3

特発性拡張型心筋症 (特定疾患対象)	I42.0	97	0.5	心房粗動	I48.0B	9	0.1
肥大型閉塞性心筋症 (特発性)肥大型心筋症	I42.1	25	0.1	心室粗・細動	I49.0	14	0.1
心内膜心筋線維症	I42.2	266	1.5	洞不全症候群	I49.5	60	0.3
心内膜線維弾性症	I42.3	3	0.0	先天性心疾患等 (15,428 人)			
特発性拘束型心筋症	I42.4	10	0.1	心房中隔欠損症	Q21.1	412	2.3
不整脈原性右室心筋症	I42.5	12	0.1	心内膜床欠損 (以下、再掲)	Q21.2 等	959	5.4
心尖部肥大型心筋症	I42.9A	3	0.0	不完全型心内膜床欠損	Q21.2A	52	0.3
ミトコンドリア心筋症	I42.9B	1	0.0	完全型心内膜床欠損	Q21.2B	455	2.5
拡張相肥大型心筋症	I42.9C	1	0.0	単心房	Q20.8	58	0.3
	I42.9F	65	0.4	心室中隔欠損症	Q21.0	2357	13.2
調律異常 (1097 人)				単心室	Q20.4	1018	5.7
房室ブロック (以下、再掲)		183	1.0	動脈管開存症	Q25.0	192	1.1
Mobitz II 型ブロック	I44.1B	2	0.0	大動脈肺動脈中隔欠損症			
完全房室ブロック	I44.2	169	0.9		Q21.4	12	0.1
高度房室ブロック	I44.2A	12	0.1	冠動脈異常 (以下、再掲)	Q24.5 等	123	0.7
左脚ブロック	I44.7	4	0.0	左冠動脈肺動脈起始症	Q24.5A	54	0.3
WPW 症候群	I45.6A	66	0.4	右冠動脈肺動脈起始症	Q24.5B	5	0.0
早期興奮症候群	I45.6	1	0.0	両冠動脈肺動脈起始症	Q24.5B	1	0.0
房室解離	I45.8	1	0.0	冠動静脈瘻	Q24.5D	20	0.1
完全心ブロック (以下、再掲)		397	2.2	冠動脈瘻	Q24.5E	26	0.1
ロマノ・ワルド症候群	I45.9B	4	0.0	大動脈奇形 (以下、再掲)	Q25.4 等	42	0.2
Adams-Stokes 発作	I45.9C	4	0.0	血管輪	Q25.4C	5	0.0
QT 延長症候群	I45.9D	385	2.1	大動脈瘤	Q25.4E	6	0.0
心室性期外収縮	I49.3	31	0.2	重複大動脈弓	Q25.4F	4	0.0
上室性頻拍 (以下、再掲)	I47.1 等	186	1.0	Valsalva 洞動脈瘤	Q25.4H	21	0.1
発作性上室性頻拍	I47.1A	119	0.7	左肺動脈右肺動脈起始	Q25.4J	6	0.0
非発作性上室性頻拍	I47.1B	11	0.1	部分的肺静脈還流異常症			
多源性心房性頻拍	I47.1C	7	0.0		Q26.3	22	0.1
房室結節性異所性頻拍	I47.1D	3	0.0	シミター症候群	Q26.8C	6	0.0
心室性頻拍 (以下、再掲)	I47.2 等	113	0.6	総肺静脈還流異常症	Q26.2	276	1.5
発作性心室性頻拍	I47.2A	15	0.1	三心房心	Q24.2	13	0.1
非発作性心室性頻拍	I47.2B	2	0.0	三尖弁閉鎖症	Q22.4	472	2.6
詳細不明な頻拍 (以下、再掲)	I47.9 等	23	0.1	三尖弁狭窄症	Q22.4B	30	0.2
発作性頻拍	I47.9A	21	0.1	エプスタイン奇形	Q22.5	195	1.1
非発作性頻拍	I47.9B	2	0.0	右心室低形成症	Q22.6	36	0.2
心房細動	I48	9	0.1	三尖弁閉鎖不全	I07.1	52	0.3
				肺動脈弁閉鎖症	Q22.0	178	1.0
				肺動脈弁閉鎖不全症	Q22.2	9	0.1

肺動脈閉鎖症	Q25.5	878	4.9	(以下、再掲)	D48.7 等	29	0.2
肺動脈狭窄症	Q25.6 等	363	2.0	心臓横紋筋腫	D15.1A	3	0.0
(以下、再掲)				心臓粘液腫	D15.1C	1	0.0
肺動脈弁狭窄症	I37.0	209	1.2	慢性心膜炎	I31.9	4	0.0
肺動脈弁下狭窄症	Q24.3	7	0.0	慢性心筋炎	I51.4	21	0.1
肺動脈弁異形成	Q22.3	7	0.0	左室憩室	Q24.8B	1	0.0
先天性肺動脈弁欠損	Q22.3A	7	0.0	先天性心膜欠損症	Q24.8E	4	0.0
肺動脈形成不全	Q25.7	26	0.1	慢性心不全	I50.9	89	0.5
Fallot 四徴症	Q21.3	2499	13.9	心筋炎後の心肥大	I51.7	23	0.1
右室二腔症	Q21.0B	9	0.1	冠動脈瘤	I25.4	52	0.3
右胸心	Q24.0	36	0.2	冠動脈狭窄症	Q24.5G	15	0.1
総動脈幹遺残症	Q20.0	158	0.9	狭心症	I20.9	9	0.1
僧帽弁閉鎖症	Q23.2	57	0.3	心筋梗塞	I21.9	7	0.0
僧帽弁狭窄症	I05.0	82	0.5	冠動脈拡張症	Q24.5F	1	0.0
僧帽弁閉鎖不全症	I34.0	411	2.3	不明 (コンピュータ入力ミス等)		11	0.1
僧帽弁逸脱症候群	I34.1	17	0.1				
大動脈狭窄症	Q23.0	537	3.0	5. 内分泌疾患			
(以下、再掲)				「内分泌疾患」に関する集計結果を表5に示す。			
大動脈弁狭窄症	Q23.0A	375	2.1	平成23年度の登録人数は31,935人であり、			
大動脈弁下狭窄症	Q23.0B	14	0.1	平成11年度29,178人、平成12年度30,690			
大動脈弁上狭窄症	Q23.0C	38	0.2	人、平成13年度31,640人、平成14年度30,583			
大動脈弁閉鎖不全症	Q23.1	177	1.0	人、平成15年度29,987人、平成16年度28,540			
左心低形成症候群	Q23.4	434	2.4	人、平成17年度30,524人、平成18年度28,924			
大動脈弁閉鎖症	Q23.4A	9	0.1	人、平成19年度28,969人、平成20年度28,807			
大動脈縮窄症	Q25.1	509	2.8	人、平成21年度30,338人、平成22年度の登			
大動脈弓閉鎖	Q25.3	223	1.2	録人数は31,229人であり、報告された実施主			
大動脈憩室	Q25.4D	1	0.0	体数を考慮すれば、年度ごとの差、また疾患			
アイゼンメンゲル症候群	Q21.8	14	0.1	ごとの登録割合の差は少なかった。			
完全大血管転位症	Q20.3	1009	5.6	平成23年度は登録人数が多い順に、成長ホ			
修正大血管転位症	Q20.5	311	1.7	ルモン分泌不全性低身長症40.5%、先天性甲			
両大血管右室起始症	Q20.1	1176	6.6	状腺機能低下症18.4%、甲状腺機能亢進症			
タウシク・ビング症候群 (再掲)	Q20.1A	5	0.0	12.0%、ターナー症候群4.5%、中枢性思春期			
両大血管左室起始症	Q20.2	11	0.1	早発症4.0%、慢性甲状腺炎3.7%、思春期早			
その他 (774人)				発症3.2%、先天性副腎過形成3.2%であり、			
無脾症	Q89.0	224	1.3	これらの8疾患で内分泌疾患の89.5%を占め			
多脾症候群	Q89.0A	75	0.4	ていた。			
小児原発性肺高血圧症	I27.0	168	0.9	平成16年度から平成23年度まで登録割合			
慢性肺性心	I27.9	38	0.2	に大きな変化は見られなかったが、不明確な			
(体) 動静脈ろう	Q27.3	11	0.1	疾患名が整理され、細分類された疾患名での			
心臓腫瘍 (粘液腫、横紋筋腫、脂肪腫、線維腫)				登録が多くなった。例えば、平成16年度→17			

年度→18年度→19年度→20年度→21年度→22年度→23年度にかけて、詳細不明の甲状腺機能低下症は 6.3%→0.6%→0.2%→0.1%→0.0%→0.0%→0.0%→0.0%に、詳細不明の先天性副腎過形成症は、2.9%→0.4%→0.3%→0.1%→0.1%→0.2%→0.1%→0.1%に著減した。登録内容が以前より正確になったと期待される。

表 5. 平成 23 年度 内分泌疾患
Endocrine Diseases

(合計 31,935 人)

新規診断 4,555 人、継続 26,982 人、転入 131 人、再開 96 人、無記入 171 人

男 14,279 人、女 16,996 人、無記入 660 人
国の小慢事業 31,904 人、県単独事業 31 人

疾患名	ICD-10	人数(人)	%
視床下部・下垂体疾患 (14210 人)			
下垂体機能低下症	E23.0A	601	1.9
ゴナドトロピン欠乏症	E23.0B	65	0.2
副腎皮質刺激ホルモン欠乏症	E23.0C	15	0.0
甲状腺刺激ホルモン欠乏症	E23.0D	43	0.1
成長ホルモン分泌不全性低身長症	E23.0E	12948	40.5
下垂体性尿崩症	E23.2	379	1.2
腎性尿崩症	N25.1	137	0.4
下垂体性巨人症	E22.0	9	0.0
高プロラクチン血症	E22.1	3	0.0
クッシング病	E24.0	9	0.0
抗利尿ホルモン分泌異常症候群	E22.2	1	0.0
甲状腺疾患 (11064 人)			
甲状腺機能低下症	E03.9 等	5926	18.6
(E03.9C の 43 人含)	(以下、再掲)		
クレチン症	E03.1A	5865	18.4
先天性甲状腺ホルモン不応症	E03.1B	9	0.0
処置後甲状腺機能低下症	E03.2	75	0.2

慢性甲状腺炎	E06.3	1189	3.7
甲状腺機能亢進症	E05.0	3836	12.0
甲状腺中毒性ミオパチー	E05.9	6	0.0
単純甲状腺腫	E04.0	18	0.1
腺腫様甲状腺腫	E04.8	14	0.0

副甲状腺疾患 (418 人)

特発性副甲状腺機能低下症			
	E20.0	202	0.6
先天性副甲状腺欠損症	E20.9	19	0.1
仮性副甲状腺機能低下症			
	E20.1	181	0.6
原発性副甲状腺機能亢進症			
	E21.0	4	0.0
特発性副甲状腺機能亢進症			
	E21.3	19	0.1
処置後副甲状腺機能低下症			
	E89.2	4	0.0

副腎疾患 (1346 人)

アジソン病	E27.1	39	0.1
慢性副腎不全	E27.1A	1	0.0
副腎皮質刺激ホルモン不応症	E27.1B	61	0.2
副腎形成不全	Q89.1	94	0.3
先天性副腎過形成		1012	3.2
(E25.0 の 41 人を含む。以下、再掲)			
21 水酸化酵素欠損症	E25.0A	707	2.2
先天性副腎リポイド過形成	E25.0B	251	0.8
3β 水酸化ステロイド脱水素酵素欠損症	E25.0C	5	0.0
11β 水酸化酵素欠損症	E25.0D	4	0.0
17α 水酸化酵素欠損症	E25.0E	3	0.0
18 水酸化ステロイド脱水素酵素欠損症	E25.0F	1	0.0
アルドステロン分泌不全	E27.4B	7	0.0
偽性低アルドステロン症	E27.4C	10	0.0
副腎腺腫	D35.0A	2	0.0
男性化副腎腫瘍	D35.0B	2	0.0
クッシング症候群	E24.9A	7	0.0

周期性 ACTH 症候群	E24.9B	103	0.3	プラダー・ウィリー症候群	Q87.1A	584	1.8
特発性アルドステロン症	E26.0	5	0.0	ヌーナン症候群	Q87.1B	8	0.0
高アルドステロン症	E26.9	3	0.0	ローレンス・ムーン・ビードル症候群	Q87.8A	1	0.0
性ホルモンに関わる疾患 (4108 人)				早老症	E34.8A	4	0.0
原発性性腺機能低下症 (男)				5α レダクターゼ欠損症	E88.8B	3	0.0
	E29.1	63	0.2	異所性プロラクチン産生腫瘍	E34.2D	1	0.0
アンドロゲン不応症	E34.5	17	0.1	不明 (コンピュータ入力ミス等)		8	0.0
睾丸欠損症	Q55.0	2	0.0				
睾丸形成不全	Q55.1	9	0.0				
クラインフェルター症候群	Q98.4	18	0.1				
XY 純粋型性腺形成不全症	Q99.1B	2	0.0				
睾丸腫瘍	D40.1	1	0.0				
原発性性腺機能低下症 (女)							
	E28.3	112	0.4				
卵巣形成不全	Q50.3	9	0.0				
ターナー症候群	Q96	1449	4.5				
卵巣腫瘍	D39.1	2	0.0				
半陰陽	Q56.0	10	0.0				
男性仮性半陰陽	Q56.1	11	0.0				
女性仮性半陰陽	Q56.2	1	0.0				
X Y 女性	Q97.3	1	0.0				
思春期早発症	E22.8	1020	3.2				
中枢性思春期早発症	E22.8A	1264	4.0				
仮性思春期早発症	E30.1A	8	0.0				
マッキューン・オルブライト症候群							
	Q78.1	38	0.1				
高エストロゲン症	E28.0	1	0.0				
性腺機能亢進症 (女)	E28.8	3	0.0				
多嚢胞性卵巣症候群	E28.2	6	0.0				
性腺機能亢進症 (男)	E29.0	3	0.0				
(特発性) 思春期遅発症	E30.0	56	0.2				
隣疾患 (160 人)							
全身性リポジストロフィー	E88.1	8	0.0				
高インスリン血症	E16.1	78	0.2				
特発性低血糖症	E16.2	74	0.2				
その他							
ラロン型小人症	E34.3A	3	0.0				
多発性内分泌腺腫症	D44.8	5	0.0				

6. 膠原病

「膠原病」に関する集計結果を表 6 に示す。

平成 10 年度の登録人数は 6,125 人、平成 11 年度は 3,626 人、平成 12 年度 3,269 人、平成 13 年度 3,189 人、平成 14 年度 3,194 人、平成 15 年度 5,229 人、平成 16 年度 3,437 人、平成 17 年度 4,091 人、平成 18 年度 3,563 人、平成 19 年度 3,571 人、平成 20 年度 3,336 人、平成 21 年度 3,651 人、平成 22 年度 3,647 人、平成 23 年度 3,713 人であった。平成 16 年度以前の登録人数は、年度による変動が大きかったが、その後は比較的落ち着いていた。

平成 23 年度の各疾患の登録割合は、川崎病性冠動脈病変 34.6%、若年性関節リウマチ 30.9%、若年性特発性関節炎 27.5% の順であり、従来とほぼ同様の割合であった。ただし、若年性特発性関節炎での登録は、平成 17 年度から平成 23 年度にかけて、131 人 (3.2%) → 188 人 (5.3%) → 286 人 (8.2%) → 392 人 (12.0%) → 611 人 (18.9%) → 761 人 (22.9%) → 1020 人 (27.5%) と増加した。

表 6. 平成 23 年度 膠原病

Collagen Diseases

(合計 3,713 人)

新規診断 652 人、継続 2,977 人、転入 28 人、再開 22 人、無記入 34 人
男子 1,675 人、女子 1,951 人、無記入 87 人
国の小慢事業 3,689 人、県単独事業 24 人

疾患名 ICD-10 人数(人) %

リウマチ性心疾患	I09.9	17	0.5
スチーブンス・ジョンソン症候群			
	L51.1	23	0.6
慢性関節リウマチ	M06.9	10	0.3
若年性関節リウマチ	M08.2	1149	30.9
若年性特発性関節炎	M08.2B	1020	27.5
川崎病性冠動脈病変		1284	34.6
(M30.3 の 539 人を含む。以下、再掲)			
冠動脈瘤 (川崎病性)	I25.4D	683	18.4
冠動脈拡張症 (川崎病性)	I25.4B	51	1.4
冠動脈狭窄症 (川崎病性)	I25.4C	11	0.3
シェーグレン症候群	M35.0	119	3.2
自己免疫性肝炎	K73.8	69	1.9
自己免疫性腸炎	K90.8B	16	0.4
不明 (コンピュータ入力ミス等)		0	0.0

7. 糖尿病

「糖尿病」に関する集計結果を表 7 に示す。

11 年度の登録人数は 4,929 人、12 年度は 5,260 人、13 年度 5,346 人、14 年度 5,386 人、15 年度 5,099 人、16 年度 5,063 人、17 年度 5,970 人、18 年度 6,016 人、19 年度 6,200 人、20 年度 6,056 人、21 年度 6,509 人、22 年度 6,431 人、23 年度 6,605 人であり、年度ごとの差は少なかった。17 年度以降は 6,000 人前後と、それ以前に比べて、若干の増加傾向は認められた。

登録割合は、1 型糖尿病 81.2%、2 型糖尿病 16.8% であり、従来と同様であったが、詳細不明の糖尿病は 16 年度の 9.6% から、17 年度 0.5%、18 年度 0.1%、また、19 年度以降はほぼ 0.0% と激減した。登録内容が以前より正確になったと期待される。

表 7. 平成 23 年度 糖尿病

Diabetes Mellitus

(合計 6,605 人)

新規診断 859 人、継続 5,630 人、転入 47 人、再開 17 人、無記入 52 人
 男子 2,823 人、女子 3,641 人、無記入 141 人
 国の小慢事業 6,602 人、県単独事業 3 人

疾患名	ICD-10	人数(人)	%
1 型糖尿病	E10.9	5363	81.2
2 型糖尿病	E11.9	1112	16.8
インスリン抵抗性糖尿病 (以下、再掲)	E11.9A 等	55	0.8
インスリン受容体異常症	E11.9B	3	0.0
レプレコニズム	E11.9C	2	0.0
分類不能のインスリン抵抗性糖尿病	E11.9F	50	0.8
膵 β 細胞機能に関わる遺伝子異常による糖尿病 (以下、再掲)	E11.9G 等	33	0.5
MODY1 (HNF-1α 遺伝子異常)	E11.9H	6	0.1
MODY 2	E11.9I	5	0.1
MODY 3 (HNF-4α 遺伝子異常)	E11.9J	8	0.1
MODY 5 (HNF-1β 遺伝子異常)	E11.9L	3	0.0
ミトコンドリア遺伝子異常による糖尿病	E11.9M	4	0.1
インスリン遺伝子異常による糖尿病	E11.9N	5	0.1
アミリン遺伝子異常による糖尿病	E11.9O	1	0.0
他の疾患伴う糖尿病 (以下、再掲)	E11.9P 等	37	0.6
二次性糖尿病	E11.9R	11	0.2
膵摘後糖尿病	E11.9Q	4	0.1
詳細不明の糖尿病	E14.9	5	0.1
不明 (コンピュータ入力ミス等)		0	0.0

8. 先天性代謝異常

「先天性代謝異常」に関する集計結果を表 8 に示す。

平成 11 年度の登録人数は 6,373 人、平成 12 年度は 7,113 人、平成 13 年度 7,293 人、平成 14 年度 7,496 人、平成 15 年度 7,217 人、平成 16 年度 7,016 人であった。しかし、平成 17 年度は、新設された慢性消化器疾患群に胆

道閉鎖症等が登録されたため、登録人数は4,497人に減少し、平成18年度4,376人、平成19年度4,470人、平成20年度4,362人、平成21年度4,662人、平成22年度4,659人、平成23年度4,778人であり、その後の増減はほとんど見られなかった。

平成23年度は登録人数が多い順に、軟骨無形成症21.2%、骨形成不全症11.6%、家族性高コレステロール血症6.0%、ウィルソン病5.7%、フェニルケトン尿症5.2%、糖原病5.0%、ビタミンD抵抗性くる病3.8%、ムコ多糖症3.7%、スフィンゴリピドーシス3.5%、シトルリン血症2.5%、色素性乾皮症1.8%であり、以前とほぼ同様であった。

ただし、ガラクトース血症は、平成17年度から平成23年度にかけて、108人(2.4%)→84人(1.9%)→75人(1.7%)→56人(1.3%)→49人(1.2%)→48人(1.1%)→45人(0.9%)と減少した。以前は、新生児マススクリーニングで発見された肝胆道系疾患が、慢性消化器群で登録されるようになった結果と推測される。

新規対象疾患として脂肪酸酸化異常症の中鎖アシルCoA脱水素酵素欠損症、極長鎖アシルCoA脱水素酵素欠損症、グルタル酸尿症II型等、タンデム質量分析計による「新しい新生児マススクリーニング」対象疾患の解析からは、スクリーニングされた患児は、スクリーニング以外で発見された患児に比べて、症状が少ない傾向が認められた⁴⁾。今後も小慢事業を継続することにより、その有用性を判定する資料を提供できることが期待される。

表8. 平成23年度 先天性代謝異常

Inborn Errors of Metabolism

(合計4,778人)

新規診断445人、継続4,252人、転入35人、再開23人、無記入23人

男子2,600人、女子2,063人、無記入115人

国の小慢事業4,777人、県単独事業1人

疾患名	ICD-10	人数(人)	%
トランスコバラミンII欠損症	D51.2	4	0.1
ビタミンD依存性くる病	E55.0A	10	0.2
フェニルアラニン代謝異常(以下、再掲)		286	6.0
フェニルケトン尿症	E70.0	247	5.2
高フェニルアラニン血症	E70.0B	33	0.7
ビオプテリン欠乏症	E70.0C	6	0.1
チロシン代謝異常(以下、再掲)		19	0.4
アルカプトン尿症	E70.2A	3	0.1
チロジン血症I型	E70.2E	11	0.2
チロジン血症II型	E70.2C	2	0.0
チロジン血症III型	E70.2D	3	0.1
ヒドロキシキヌレンイン尿症	E70.8F	1	0.0
ホルムイミノトランスフェラーゼ欠損症	E70.8G	1	0.0
楓糖尿症	E71.0	22	0.5
有機酸代謝異常症(以下、再掲)		168	3.5
メチルマロン酸尿症	E71.1H	77	1.6
プロピオン酸血症	E71.1F	41	0.9
イソ吉草酸血症	E71.1A	4	0.1
βメチルクロトニルグリシン尿症	E71.1I	2	0.0
3-ヒドロキシ-3-メチルグルタル酸尿症	E71.1J	9	0.2
β-ケトチオラーゼ欠損症	E71.1K	3	0.1
複合カルボキシラーゼ欠損症	E88.8P	10	0.2
グルタル酸尿症I型	E72.3A	22	0.5
脂肪酸代謝異常症(以下、再掲)		74	1.5
脂肪酸β酸化異常症	E71.4	2	0.0
中鎖アシルCoA脱水素酵素欠損症	E71.4A	16	0.3
極長鎖アシルCoA脱水素酵素欠損症	E71.4C	16	0.3
三頭酵素欠損症	E71.4D	3	0.1
カルニチンパルミトイルトランスフェラーゼ欠損症	E71.3C	20	0.4
カルニチンアシルカルニチン転移素酵素欠損症	E71.4E	3	0.1
グルタル酸尿症II型	E72.3F	14	0.3

副腎白質ジストロフィー	E71.3A	74	1.5	糖原病	E74.0L	80	1.7
先天性リパーゼ欠損症	E71.3B	2	0.0	フルクトース-1,6-ジホスファターゼ欠損症			
アミノ酸転送異常 (以下、再掲)	E72.0 等	140	2.9		E74.1D	4	0.1
イミノ酸異常症	E72.0A	1	0.0	ガラクトース血症 (以下、再掲)		45	0.9
シスチン症	E72.0C	4	0.1	ガラクトース血症 I 型	E74.2A	18	0.4
眼脳腎症候群	E72.0D	36	0.8	ガラクトース血症 II 型 (ガラクトキナーゼ欠損症)	E74.2B	17	0.4
シスチン尿症	E72.0E	65	1.4	ガラクトース血症 III 型			
ファンconi 症候群	E72.0F	22	0.5	(uridine diphosphate galactose-4-epimerase 欠損症)			
ハルトナップ病	E72.0G	2	0.0		E74.2C	10	0.2
リジン尿性蛋白不耐症	E72.0K	7	0.1	グルコース・ガラクトース吸収不全症			
高オルニチン血症高アンモニア血症ホモシトルリン尿症	E72.0L	3	0.1		E74.3	15	0.3
亜硫酸酸化酵素欠損症	E72.1A	1	0.0	ピルビン酸代謝異常 (以下、再掲)		37	0.8
ホモシスチン尿症	E72.1C	17	0.4	ピルビン酸カルボキシラーゼ欠損症			
尿素サイクル代謝異常 (以下、再掲)	E72.2 等	286	5.9		E74.4A	6	0.1
高アルギニン血症	E72.2A	6	0.1	ピルビン酸脱水素酵素欠損症	E74.4C	31	0.8
アルギニノコハク酸尿症	E72.2B	8	0.2	シュウ酸尿症	E74.8C	4	0.1
高アンモニア血症	E72.2C	51	1.1	グリセルアルデヒド-3-リン酸脱水素酵素欠乏症			
シトルリン血症	E72.2D	120	2.5		E74.8D	1	0.0
オルニチントランスカルバミラーゼ欠損症	E72.2E	76	1.6	ショ糖・イソ麦芽糖吸収不全症			
カルバミルリン酸合成酵素欠損症	E72.2H	16	0.3		E74.8F	1	0.0
3-メチルグルタコン酸尿症	E72.3C	4	0.1	ガングリオシドーシス (以下、再掲)	E75.1C 等	25	0.5
高リジン血症	E72.3B	1	0.0	Tay-Sachs 病	E75.0B	13	0.3
高グリシン血症	E72.5	6	0.1	GM2-ガングリオシドーシス	E75.0C	6	0.1
高プロリン血症	E72.5C	1	0.0	GM1-ガングリオシドーシス	E75.1A	4	0.1
腎性アミノ酸尿症	E72.9	5	0.1	ムコリピドーシス IV 型	E75.1D	1	0.0
乳糖分解酵素欠損症	E73.0	19	0.4	スフィンゴリピドーシス	E75.2 等	168	3.5
乳糖不耐症	E73.9	54	1.1	(以下、再掲)			
糖原病 (以下、再掲)	E74.0L 等	240	5.0	Alexander 病	E75.2A	12	0.2
糖原病 I 型	E74.0A	66	1.4	Gaucher 病	E75.2D	42	0.9
糖原病 II 型	E74.0B	29	0.6	Fabry 病	E75.2E	42	0.9
糖原病 III 型	E74.0C	14	0.3	異染性ロイコジストロフィー	E75.2F	14	0.3
糖原病 IV 型	E74.0D	2	0.0	Krabbe 病	E75.2G	9	0.2
糖原病 V 型	E74.0E	1	0.0	Farber 病	E75.2H	2	0.0
糖原病 VI 型	E74.0F	7	0.1	多種スルファターゼ欠損症			
糖原病 VIII、X 型	E74.0I	36	0.8		E75.2I	1	0.0
肝型糖原病	E74.0J	5	0.1	Niemann-Pick 病	E75.2J	10	0.2
				Pelizaeus-Merzbacher 病	E75.2K	36	0.8
				neuronal ceroid lipofuscinosis			

	E75.4	4	0.1	先天性ポルフィリン症	E80.2F	8	0.2
コレステロールエステル蓄積症	E75.5A	5	0.1	ポルフィリン症	E80.2G	2	0.0
シアル酸尿症	E75.5C	1	0.0	Crigler-Najjar 症候群	E80.5	2	0.0
ムコ多糖症	E76.3A 等	179	3.7	銅代謝異常	E83.0 等	294	6.2
(以下、再掲)				(以下、再掲)			
Hurler 症候群	E76.0A	5	0.1	ウィルソン病	E83.0A	274	5.7
Hunter 症候群	E76.1A	119	2.5	メンケス病	E83.0B	20	0.4
ムコ多糖症Ⅲ型	E76.2A	13	0.3	リン代謝異常	E83.3 等	236	4.9
ムコ多糖症Ⅳ型	E76.2B	7	0.1	(以下、再掲)			
ムコ多糖症Ⅵ型	E76.2C	4	0.1	家族性低リン酸血症	E83.3A	49	1.0
β-グルクロニダーゼ欠損症				骨軟化症	E83.3B	3	0.1
	E76.3B	2	0.0	ビタミンD抵抗性くる病	E83.3D	184	3.8
ムコ多糖症	E76.3A	29	0.7	α1-トリプシン抑制物質欠損症			
ムコリピドーシス	E77.9 等	23	0.5		E88.0A	1	0.0
(以下、再掲)				アポ蛋白 C-II 欠損症	E88.8D	3	0.1
ムコリピドーシスⅡ型	E77.0A	17	0.4	グリセロールキナーゼ欠損症			
ムコリピドーシスⅢ型	E77.0B	4	0.1		E88.8T	3	0.1
αマンノシダーゼ欠損症	E77.1B	1	0.0	先天性高乳酸血症	G31.8B	28	0.6
高コレステロール血症 (以下、再掲)	286	6.0		脳・肝・腎症候群	Q87.8D	2	0.0
家族性高コレステロール血症				骨疾患 (以下、再掲)		1568	32.8
(ヘテロ接合型、型不明含)	E78.0A	265	5.5	軟骨無形成症	Q77.4	1013	21.2
家族性高コレステロール血症 (ホモ接合型)				骨形成不全症	Q78.0	555	11.6
	E78.0C	15	0.3	エーラース・ダンロス症候群	Q79.6	72	1.5
高リポ蛋白血症Ⅱ型	E78.0B	6	0.1	遺伝性脈管浮腫	Q82.0	1	0.0
高リポ蛋白血症Ⅳ型	E78.1	19	0.4	皮膚疾患 (以下、再掲)		219	4.6
高リポ蛋白血症Ⅰ型	E78.3B	6	0.1	色素性乾皮症	Q82.1	86	1.8
高リポ蛋白血症Ⅴ型	E78.3C	1	0.0	白皮症	E70.3B	57	1.2
αリポ蛋白欠乏症	E78.6A	1	0.0	ハーマンスキー・パドラク症候群			
家族性低β-リポ蛋白血症	E78.6B	8	0.2		E70.3C	6	0.1
レシチン-コレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症				致死性表皮水疱症	L13.9	4	0.1
	E78.6E	1	0.0	先天性魚鱗癬		66	1.4
Lesch-Nyhan 症候群	E79.1B	23	0.5	(Q80.9A の 24 人を含む。以下、再掲)			
遺伝性若年性痛風	M10.9	8	0.2	非水疱型先天性魚鱗癬様紅皮症			
adenine phosphoribosyltransferase 欠損症					Q80.9B	23	0.5
	E79.8A	12	0.3	シェーグレン・ラーソン症候群			
オロト酸尿症	E79.8B	1	0.0		Q80.9D	1	0.0
キサントチン尿症	E79.8C	2	0.0	水疱型先天性魚鱗癬様紅皮症			
ポルフィリン症 (以下、再掲)		23	0.5		Q80.3	15	0.3
プロトポルフィリン症	E80.0	2	0.0	道化師様魚鱗癬	Q80.9C	3	0.1
遺伝性コプロポルフィリン症	E80.2A	5	0.1	(以下、本来は他の疾患群に分類される)			
骨髄性プロポルフィリン症	E80.2B	6	0.1	カルタゲネル症候群	Q89.3	1	0.0